

# Abstract(要約文)作成要領

## 【Abstract(要約文)について】

- 1) Abstract は発表内容の要約文です。プログラム・抄録集に掲載されます。
- 2) 手書きの Abstract (以下、原稿と略) は受付けておりません。P C (Windows) にて Microsoft 社の「word」を使用し作成してください。  
(Microsoft のバージョンは問いません)
- 3) ページ設定及びフォント等は OS に標準のもの (以下を参照) を使用し、A4 用紙に印刷して下さい。
- 4) 内容は未発表のもの、追試発表、学理的なもの、その他とします。
- 5) 原稿提出期限までにプリントアウトした要約文 1 部と、コンピュータウィルスのチェックを済ませたデータメディア (CD-R もしくは DVD-R ) を添え、研究事業部 (学術部) 宛に提出して下さい。

## 【原稿の約束事項について】 (下記サンプル参照)

- 1) 「演題名」は 11 ポイントで、1~3 行目の使用し、左詰として下さい。
- 2) 「氏名、所属等」は 9 ポイントで、4~8 行目を使用して左詰として下さい。  
共同研究者がいる場合は最初に○印を付け、口頭発表者名 (First Author) を書いて下さい。所属名は□□支部、□□接骨院、□□整骨院、□□学校のように書き ( ) の中に入れ、氏名の後に記入して下さい。
- 3) 演題の概要 (キーワード) は 9 ポイントで、9~10 行目を使い左から 5 ワード以内で書いて下さい。
- 4) 「本文」は 9 ポイントで、11 行目の左から「20 文字×40 行」800 字以内で、記入して下さい。
- 5) 使用フォントは、和文フォントは MS 明朝、欧文フォントは Century を使用して下さい。

\* 基礎的な解剖・生理を出来るだけ省き作成して下さい。

\* 商品特性比較等においては商品名、メーカー名等特定できない形での掲載をして下さい (ただし、単一商品使用の場合は記入可とします。)

なお、学会誌 (論文集) は学会終了後に作成する予定となっております。

※論文について：学会誌形成用原稿は、学会終了後に提出いただきます。  
詳細は後日ご連絡いたします。  
また、論文集を作成し、発表者に進呈いたします。

## サンプル

### Q-angle と膝蓋骨周辺痛－その計測 肢位と男女差について－

〇〇 〇〇〇<sup>1)</sup>、〇〇 〇〇<sup>2)</sup>、〇〇 〇<sup>1)</sup>、  
〇〇〇〇<sup>1)</sup>、〇〇〇〇<sup>1)</sup>、〇〇 〇〇<sup>2)</sup>、〇  
〇 〇<sup>2)</sup>、〇〇 〇〇<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 〇〇〇〇研究会<sup>2)</sup>  
〇〇〇大学<sup>3)</sup> 〇〇〇〇研究所)

key words : Q-angle (quadriceps angle) 、  
膝蓋骨周辺痛 (para patellar pain)

【Abstract】Q-angle は、下肢 malalignment を容易に把握することができる一つの計測方法である。Q-angle の計測点と平均角度・疼痛域角度などについては、多くの文献に記載されている。しかし、計測する際の被験者の肢位について書かれている文献は少ない。

我々が3年に亘り本学会に於いて報告した研究は、仰臥位での計測ではなく、立位にて行った計測であったため、文献にある平均値よりも値が大きかった。また、女性のみ調査であったため、男性との関係を比較検討することができなかった。更に足部の肢位を固定していなかったため、下肢 malalignment により角度がばらつき、同一条件での計測ができなかった。

そこで今回は、足部の肢位を固定した状態にて立位と仰臥位、女性と男性との角度差と膝蓋骨周辺痛の有無について調査した。調査は高校生、バレーボール及びバスケットボールの球技競技者100名(200膝)16.0歳±0.75を対象に、上前腸骨棘～膝蓋骨中央と膝蓋骨中央～脛骨結節を計測点とし、この点を結んだなす角度について TRACTOGRAPH (Footech 製)を用いて足部 30° toe out に固定して Q-angle を計測し、統計処理に分散分析及び t-検定を用いて分析した結果、以下の結論を得たので発表したい。

1) Q-angle の計測肢位は、足部を 30° toe out の位置に固定して計測することで、下肢の malalignment による角度のばらつきは解消された。

2) Q-angle の値は男子に比べ女子の方が明らかに大きく、膝蓋骨周辺痛のある者の Q-angle の値は、女子では立位・仰臥位の両群間に有意な差を認めた。

以上のことより、Q-angle の計測は足部を固定した肢位にて計測すべきで、立位にて体重を负荷した際の Q-angle 値の増加が、膝蓋骨周辺痛に大きく関係し、男子に比べ女子に多いと判断して良いと思われる。